

11月の果実の見通し

令和元年10月31日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
りんご類	長野 青森 山形 ほか	7180	95%	7832	286	平年並み	291	1407	19.6%	10月後半から気温も低下し、色回りの遅れも平年並みに回復してきた。台風19号の豪雨・強風で長野県のりんご園地および選果施設は被害を受けたが、局地的である。 11月に入ると各産地の「サンふじ」が出荷開始となる(平年並み)。中生種は10月末から11月上旬に終了するため、りんご全体ではやや不足感が強まる展開が予想されるが、中旬以降は「サンふじ」の出荷が本格化し、販売は落ち着く見込み。 台風の影響は、岩手県で落果被害はあるものの、長野県は全体では軽微、主力となる青森県はほとんど被害がないため、りんご全体の量は平年並み～やや減。
西洋なし類	山形 新潟 ほか	1063	105%	1121	358	安い～平年並み	349	998	93.9%	11月の販売は山形県産「ラ・フランス」が中心。肥大が良く大玉中心で、出荷量は前年より若干増加。 新潟県産「ル・レクチェ」は複数の台風の影響で、多少落果した園地もあるが、前年より出荷量は多い見込み。出荷時期は前年同様11月下旬からになる。
かき類	福岡 奈良 新潟 ほか	6047	105%	6969	248	安い～平年並み	238	411	6.8%	「たねなし柿」の販売は、和歌山県産は11月上旬で終了予定。奈良県産は出荷ピークに入り、続いて新潟県産もピークを迎える。 甘柿は、11月1日より「早生富有」から「富有」の販売に切り替わる。岐阜県産は着果遅れによって出荷量は中旬から増え、下旬からピークを迎える。福岡県産は生育遅れによって11月中旬頃から出荷ピークに入る。両県とも12月上旬まで残るため「袋掛け」の販売は平年の販売より遅れる見込み。「次郎柿」は10月末より出荷ピークに入るが、中旬以降は減少。 柿全体のピークは11月中旬になる。
干し柿	山梨 長野 富山	133	90%	113.4	1792	安い～平年並み	1712.6	-	-	販売は10月から開始。山梨県産「あんぼ柿」の出荷量は少ないが、他県産は現在平年と変わりなく作業が進められている。下旬から各産地とも出揃い始める。
みかん類	愛媛 長崎 熊本 ほか	21322	110%	20965	273	安い	255	-	-	10月の極早生の出荷量は平年以下。11月に入ると早生の出荷が徐々に始まるが、上旬の出荷量は着色遅れによって平年より少なめ、中旬以降から増量に向かう。 肥大状況はMサイズ中心と平年並み。糖度、酸度のバランスは良く、食味良好の期待も高い。高糖度商品の発生は極早生より多いものの、平年より少ない見込み。下旬からはレギュラー品の荷動きが鈍くなるため、販売体制の強化が必要になる。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)